

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1471001162
法人名	有限会社 舞シャンブル
事業所名	グループホーム舞シャンブル
訪問調査日	令和5年4月12日
評価確定日	令和5年5月10日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は23項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471001162	事業の開始年月日	平成16年6月1日	
		指定年月日	平成16年6月1日	
法人名	有限会社 舞シャンブル			
事業所名	グループホーム 舞シャンブル			
所在地	(244-0813)			
	横浜市戸塚区舞岡町1273			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護		登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護		通い定員	名
			宿泊定員	名
			定員計	18名
			ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年4月3日	評価結果 市町村受理日	令和5年5月19日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者個々のケアを行うの場面だけでなく、感染状況に配慮した上で、他者とのコミュニケーションを図る機会を設けることで、社会性の維持に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和5年4月12日	評価機関 評価決定日	令和5年5月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は有限会社舞シャンブルの運営です。同法人は横浜市戸塚区に本社を構え、同区でグループホームを運営しています。以前工場として使用していた建物をグループホームに改修し、平成16年に開設しました。立地は、横浜市営地下鉄「舞岡駅」から舞岡公園方面に向かって徒歩10分程、畑や竹林、雑木林が残る長閑な場所にあります。周囲には保育園や高校等の文化施設、昔ながらの田園風景、多くの自然や遊歩道、谷戸の地形を生かした舞岡公園、平成9年に設立された舞岡ふるさと村虹の家があります。

●事業所では、前回の外部評価で目標に掲げていた「①家族(他者)との係わりが途切れないよう援助する。②ADLの維持・向上に努める」に注力して取り組んできました。コロナ禍の現状において、家族との関係性が希薄にならないよう、事業所から積極的に家族に電話して、利用者と話していただくようにしたり、他の利用者に配慮して別室で面会を実施していただくようにすることで、利用者と家族の不安を少しでも解消できるようにし、家族との関係性が希薄にならないよう努めています。また、ADLの維持・向上においては、個々に応じた生活リハビリや機能訓練の他、コロナで中止していた訪問マッサージなども再開し、外部機関とも連携しながらADLの維持・向上に注力しています。

●コロナ禍以降は感染症予防対策で、会議・カンファレンスなどの開催においても、集まる機会を減らし、SNSの活用や、連絡ノートなどを使用しながら意見を集約して伝えるなど、工夫しながら開催しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム舞シャンブル
ユニット名	すみれ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型に沿った理念のもと、全職員でケアを行っている。	事業所の理念「受容と自立」に基づいたケアを実践すべく、6つのケア方針「①自己決定の尊重②プライバシーの尊重③残存能力の活用④継続性の尊重⑤環境の重視⑥安心、安全、清潔の重視」を定めています。理念とケア方針は、入職時のオリエンテーションや会議でも確認して、職員への浸透を図っています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前と同様に感染症対策のもと、交流が少ない状態にある。	自治会に加入しており、自治会のお祭り参加をはじめ、地域のボランティア活動養成所として、多くのボランティアの方々を受け入れていましたが、感染症防止のために、現在も地域との交流やボランティアの受け入れは中止となっています。職員の出退勤時や日常行っている散歩時に挨拶を交わす程度に留まっています。5月以降はコロナの分類も引き下げられることから、感染者の推移や社会情勢を考慮しながらの再開を検討しています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での相談業務がほとんどとなる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面開催がほとんどとなり、以前のような意見交換が困難となっている。そのかわり、個々でのご家族との関わりが増え、意見頂く機会が増えた。	利用者・家族・舞岡第三町内会役員・地域包括支援センター職員をメンバーとして、2ヶ月に1回開催しています。コロナ禍以降は感染所拡大防止の観点から書面開催が多くなっており、意見交換が困難になっていることから、事業所の現状や活動状況の報告を行い、電話などで意見を伺うようにしています。5月以降はコロナの分類も引き下げられることから、感染者の推移や社会情勢を考慮しながらの対面での開催を検討しています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横浜市・戸塚区主催のグループホーム連絡会に参加し、意見交換を行っている。(Zoom)	横浜市の担当者とは、不明点や判断に迷う事案が生じた際に連絡を取り、相談や助言を求めています。研修や講習会の案内が届いた際には、積極的に参加するよう心がけ、福祉の動向把握に努めています。また、グループホーム連絡会にも参加しており、他事業所とも情報共有を行っています。(現在はZoomにて開催)	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的なアンケート+研修会の実地を行い、身体拘束について理解を深めながら対応を行っている。	身体拘束適正化委員会を立ち上げ、2ヶ月に1回は事例を挙げながら検討会を行うとともに、疑わしい行為については協議することで、対応を統一出来るようにしています。また、横浜市から送られてきた書式を基に職員アンケートを定期的の実施し、ケア会議等で回答を発表して認識を統一しています。年1回は身体拘束について研修を行い、身体拘束の種類・定義・弊害などについて学び、理解と知識を深めながら身体拘束のないケアに努めています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている。	虐待についても身体拘束と同様に、年1回は虐待をテーマにした研修を行い、虐待の種類・定義・弊害などについて学び、理解と知識を深めながら虐待のないケアに努めています。時には身体拘束適正化委員会の中で、事例を用いた検討会を行ったり、ケア会議などでも、日頃のケアについて振り返る機会を設け、不適切な対応が行われていないか確認し、共通認識を図ることで、虐待が見過ごされることのないようにしています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護者の受け入れの際に利用することが多く、特に役所職員を通して対応することが増えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前より個別での意見を頂く機会が増えた。最近では電子メールを使用することが増えたため、場合に応じて、各職員にも閲覧できる状態としている。	重要事項説明書に明記している苦情相談窓口について、契約時に家族へ説明しています。コロナ禍で面会を制限している関係で、以前よりも家族と連絡を取る機会が増え、電話やメール等で都度、家族から意見や要望を伺うようにしています。家族からの意見や要望は書面に残すとともに、申し送りや会議でも情報を共有しながら対応しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別でのやり取りが主となっていたが、感染状況に応じて、カンファレンスを再開していきたい。	職員からの意見や提案は、出退勤時、業務や休憩時間の合間などの会話の中で聴くようにし、職員から挙げた意見や提案を会議の議題に上げ、他の職員の意見を集約して反映させています。コロナ禍以降は感染症予防対策で、個別に話を聴くようにしたり、連絡ノートなどを活用しながら意見を集約しています。	今後の継続	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。	各ユニットに主任を配置し、主任が中心となって現場の声を吸い上げ、業務内容や業務体制の見直しを適宜行う体制を取っています。主任で判断できない内容については、管理者と主任で話し合ったうえで決めています。管理者は職員の勤務状況・資格・勤続年数を把握しており、各々が向上心を持って働けるよう助言しています。シフト作成においても、ワークライフバランスに配慮しています。	今後の継続	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	努めている。	採用面談時に経験の有無や能力について把握しています。入職時にはOJTで業務の流れや利用者の情報について説明しており、入職後も年間研修計画に基づいた研修を実施しています。外部研修においては、実りある受講となるよう、職員の経験年数やキャリアアップにつながる内容かを判断したうえで、職員を選定して受講を促しています。	今後の継続	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	電話・FAX・Zoom等によって交流を行っている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	短期・長期と状況に合わせた提供を考え、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別支援を主として行っていたが、感染状況を踏まえ、他者との繋がりも築いていきたい。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係の重要性を説明し、面会等に制限がある場合でも何ができるかを共に考え、協力体制の構築を行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めているが、感染状況等にて提供に一定の期間が開く場合があった。今後の課題。	入居前面談で本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所に関する情報を聴き取り、入居後も馴染みの人や場所との関係性を継続できるよう支援しています。現在は面会を制限しており、電話や手紙での支援が主となっています。5月以降はコロナの分類も引き下げられることから、感染者の推移や社会情勢を考慮しながら面会を再開する予定としています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	継続しての関係性の構築が困難なため、職員介入にて係わり合いを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にあらたな相談を頂く場合や、継続した関係性の維持もあり、今後も努めていく。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人からの訴えがある場合、その内容に沿って対応できるよう努める。訴えが困難な場合にはご家族より情報収集を行い、内容に沿う様努めている。	入居時のアセスメントで、本人・家族・介護支援専門員から、生活歴・趣味・嗜好品・ADL・IADL・暮らし方の希望に関する情報を聴き取りながら、基本情報シートを作成しています。入居前と入居後では情報が異なることもあることから、日々の関わりを大切にしながら、現在の思いや意向の把握に努めています。また、事業所では居室担当制を設け、担当者を中心に、全員で情報を共有しながら、希望や意向の実現に向けた支援に努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの意見のモニタリングに努めている。外出等にも制限緩和にて組み込めることが増えた。	入居時のアセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成し、暫定で1ヶ月程様子を観察しています。その後は、事業所での暮らしぶりやアセスメントの情報を基に改めて介護計画を作成しています。2ヶ月に1回開催しているケアカンファレンスで、個人日常記録、職員の気づき等を基にモニタリングを行い、その方の現状に即した介護計画を作成しています。短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月で見直しを基本とし、介護認定期間と併せて更新しています。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の機会が少しずつ戻ってきているが、地域の季節行事はいまだに中止が多く、交流できておらず。			
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	努めている。	入居時にかかりつけ医の有無を確認し、本人や家族の意向を尊重して主治医を決めていただいています。事業所の協力医療機関に切り替えた方は月2回の訪問診療を受けており、従来のかかりつけ医を継続されている方は、原則的に家族対応での受診をお願いしています。歯科医は毎年1回の無料検診があり、必要な方のみ契約して、希望や必要に応じて口腔ケアと治療を受けています。看護師として3名の職員を確保しており、週1回出勤して、利用者の健康管理や医療面についての相談にのっていただいています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送以外にも日ごろより関係医療機関職員と受け入れ状況等の話し合いの場を作り、情報交換を行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際に往診医と家族での話し合いの場を設け、状態に合わせた治療内容等の意見交換を行っている。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って説明し、延命治療を含めた終末期の意向を確認したうえで、同意書を取り交わしています。重度化した段階や急変した場合には、家族・医師・管理者で話し合いの場を設け、家族の意向を再度確認し、方針を固めていただくよにしています。看取りを希望される場合には、看取りの介護計画を作成し、穏やかな終末期を迎えられるようチームとして支援しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一度避難訓練を行い、夜間想定等パターンを分けて行っている。	火災と地震を想定した訓練を年2回、歩行できる方は一緒に参加していただき、避難経路を確認していましたが、現在はコロナの影響もあり、職員のみで実施しています。備蓄品は3～4日分の水・食糧・衛生用品・懐中電灯・カセットコンロなどを用意しており、屋外と屋内の倉庫の2ヶ所に分けて準備しています。業者による防災機器点検の際には、防災機器の操作方法について確認しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に沿ったケアを心がけている。	入職時研修や入職後も定期的な研修を行うとともに、申し送りやユニット会議などで、接遇・マナー・倫理について話し合う機会も設けています。利用者一人ひとりの人格や個性を尊重し、尊厳や自尊心を傷つけることのないよう、言動や対応に十分留意しています。居室への入室、排泄支援を行う際にはプライバシーや羞恥心に配慮して対応しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアの中で、細かな自己決定ができるよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きく生活リズムが崩れない様にはするが、個々の状態や精神症状にあわせて対応行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族希望にて化粧水や、ファンデーション等をケアに組み込んでいる。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	面会緩和にて差し入れ等が可能となり、本人の好物を召し上がる機会が増えた。	業者からメニュー付きで食材を発注し、職員が調理しています。キッチン是对面式で利用者を見守りしながら調理が出来るようになっており、利用書と一緒に台所で作業できる十分な広さが確保されています。時期によっては、畑で収穫した季節野菜で一品足すこともあります。外食支援については、現状まだ中止としており、5月以降はコロナの分類も引き下げられることから、感染者推移や社会情勢を考慮しながら再開することを検討しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常食だけでなく、軟飯・ミキサー・ゼリー食等本人の状態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケアだけでなく、必要に応じて歯科医の往診を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時誘導等、排泄リズムに合わせた支援を行い、訴え時にも誘導を行っている。	利用者全員の排泄表をつけ、一人一人の排泄パターンの把握に努めています。可能な限りトイレで排泄できるよう、時間やタイミングを見計らった声掛けや誘導を行っています。ユニット会議やカンファレンスで適した排泄支援方法を検討し、トイレでの排泄につなげられるよう支援しています。夜間帯は睡眠を優先し、巡回時に起きているようであれば声かけてトイレにお連れするようにしています。下剤の使用については、3日間でなければ看護師に相談して下剤を処方してもらうようにしています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用だけでなく、活動時間を多く作ることや、排泄時間を必要な時間確保することで、排便を促している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一定の曜日を設けているが、希望にて入れる様取り組んでいる。	入浴は週に2回を基本とし、入浴前のバイタルチェックと本人の意思を確認したうえで無理強いすることなく入浴していただけるよう支援しています。衣服の着脱時には、痣や皮膚疾患などの早期発見に務めています。重度化して浴槽をまたぐことが困難になった方には、ミスト浴で対応しています。身体状況に関わらず入浴できるように支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食休み等、居室にて臥床時間を設け、誘導等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬一覧を作成し、どのような効能があるのかの確認、変更があればその都度更新をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室担当者を中心に取り組み、生活に生かせる様支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等を中心に行っていたが、感染状況を踏まえた上で以前のような取り組みを再開していきたい。	事業所は田園や竹林、雑木林等の緑が多く長閑な環境にあります。舞岡公園まで続く道は遊歩道になっており、遊歩道に沿ってせせらぎが流れ、近くの保育園児達の散歩コースにもなっており、散歩時には園児や舞岡公園を目指して歩く方達と挨拶を交わしています。以前に比べ、人が多い場所への外出は避けており、散歩やドライブ等を定期的に行っています。5月以降はコロナの分類も引き下げられることから、感染者の推移や社会情勢を考慮しながら、積極的に外出を再開したいと考えています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に対し、執着心をもつ方もいる。その場合、ご家族理解のもと小銭を管理されているかたもいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別にて携帯電話を所有されている方もいる。場合により、電話面会もあり。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内部で行ったレクリエーションの写真を飾る等、明るい生活空間になりよう努めている。	風景写真、カレンダー、季節に応じた装飾を行い、季節の生花を生け、施設内部で行ったレクリエーションの写真を飾る等、明るい生活空間になるよう努めています。2階は天井が高く開放感があり、空気の循環を良くする為に、シーリングファンを取り付けています。天窓もあり、居室や廊下、リビングは陽光が射し込み明るい空間になっています。冬場は乾燥対策として洗濯物を室内に干し、加湿器や空気清浄機も併用しています。感染症予防のため、定期的な換気とアルコール消毒も欠かさず行っています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを設置し、食席以外にも休息できる場を確保している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご本人やご家族と相談し、配置検討を行っている。	居室には、エアコン・クローゼットが完備されていますが、それ以外物については、家族と相談しながら、箆笥や飾り棚、ご自分で描かれた絵や習字の作品、机、椅子等の馴染みの物を持ち込んで頂き、壁にも写真を貼る等し、利用者にとって居心地よく過ごせるよう努めています。転倒のリスクがある場合は、家族に連絡して配置を変えることもあります。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に表示の張り紙を張る等してわかりやすくしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム舞シャンブル

作成日 令和5年4月12日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		感染状況を踏まえて個々に対しての支援を中心として行っていたが、今後は以前のような外出レクや、地域住民との繋がりを少しずつ再開し、社会性の確立を再構築していく。	内・外部問わず、他者との関わりを通して、利用者様の社会性を確立する。また、そこで生まれた役割ややりがいを見つける事で、日常生活に対する意欲向上に繋げて生きたい。	少しずつではあるが、地域住民との交流（イベント等）の機会を設ける。また、施設内でも他者との関わりを持てる様、既存のレクを再開する等していきたい。	1ヶ月から1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム舞シャンブル
ユニット名	れんげ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型に沿った理念のもと、全職員でケアを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前と同様に感染症対策のもと、交流が少ない状態にある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での相談業務がほとんどとなる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面開催がほとんどとなり、以前のような意見交換が困難となっている。そのかわり、個々でのご家族との関わりが増え、意見頂く機会が増えた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横浜市・戸塚区主催のグループホーム連絡会に参加し、意見交換を行っている。(Zoom)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的なアンケート+研修会の実地を行い、身体拘束について理解を深めながら対応を行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護者の受け入れの際に利用することが多く、特に役所職員を通して対応することが増えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前より個別での意見を頂く機会が増えた。最近では電子メールを使用することが増えたため、場合に応じて、各職員にも閲覧できる状態としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別でのやり取りが主となっていたが、感染状況に応じて、カンファレンスを再開していきたい。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	電話・FAX・Zoom等によって交流を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	短期・長期と状況に合わせた提供を考え、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別支援を主として行っていたが、感染状況を踏まえ、他者との繋がりも築いていきたい。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係の重要性を説明し、面会等に制限がある場合でも何ができるかを共に考え、協力体制の構築を行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めているが、感染状況等にて提供に一定の期間が開く場合があった。今後の課題。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	継続しての関係性の構築が困難なため、職員介入にて係わり合いを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にあらたな相談を頂く場合や、継続した関係性の維持もあり、今後も努めていく。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人からの訴えがある場合、その内容に沿って対応できるよう努める。訴えが困難な場合にはご家族より情報収集を行い、内容に沿う様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの意見のモニタリングに努めている。外出等にも制限緩和にて組み込めることが増えた。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の機会が少しづつ戻ってきているが、地域の季節行事はいまだに中止が多く、交流できておらず。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送以外にも日ごろより関係医療機関職員と受け入れ状況等の話し合いの場を作り、情報交換を行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際に往診医と家族での話し合いの場を設け、状態に合わせた治療内容等の意見交換を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一度避難訓練を行い、夜間想定等パターンを分けて行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に沿ったケアを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアの中で、細かな自己決定ができるよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きく生活リズムが崩れない様にはするが、個々の状態や精神症状にあわせて対応行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族希望にて化粧水や、ファンデーション等をケアに組み込んでいる。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	面会緩和にて差し入れ等が可能となり、本人の好物を召し上がる機会が増えた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常食だけでなく、軟飯・ミキサー・ゼリー食等本人の状態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケアだけでなく、必要に応じて歯科医の往診を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時誘導等、排泄リズムに合わせた支援を行い、訴え時にも誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用だけでなく、活動時間を多く作ることや、排泄時間を必要な時間確保することで、排便を促している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一定の曜日を設けているが、希望にて入れる様取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食休み等、居室にて臥床時間を設け、誘導等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬一覧を作成し、どのような効能があるのかの確認、変更があればその都度更新をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室担当者を中心に取り組み、生活に生かせる様支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等を中心に行っていたが、感染状況を踏まえた上で以前のような取り組みを再開していきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に対し、執着心をもつ方もいる。その場合、ご家族理解のもと小銭を管理されているかたもいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別にて携帯電話を所有されている方もいる。場合により、電話面会もあり。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内部で行ったレクリエーションの写真を飾る等、明るい生活空間になりよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを設置し、食席以外にも休息できる場を確保している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご本人やご家族と相談し、配置検討を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に表示の張り紙を張る等してわかりやすくしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム舞シャンブル

作成日 令和5年4月12日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		感染状況を踏まえて個々に対しての支援を中心として行っていたが、今後は以前のような外出レクや、地域住民との繋がりを少しずつ再開し、社会性の確立を再構築していく。	内・外部問わず、他者との関わりを通して、利用者様の社会性を確立する。また、そこで生まれた役割ややりがいを見つける事で、日常生活に対する意欲向上に繋げて生きたい。	少しずつではあるが、地域住民との交流（イベント等）の機会を設ける。また、施設内でも他者との関わりを持てる様、既存のレクを再開する等していきたい。	1ヶ月から1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。